ふるさとの誇り 160

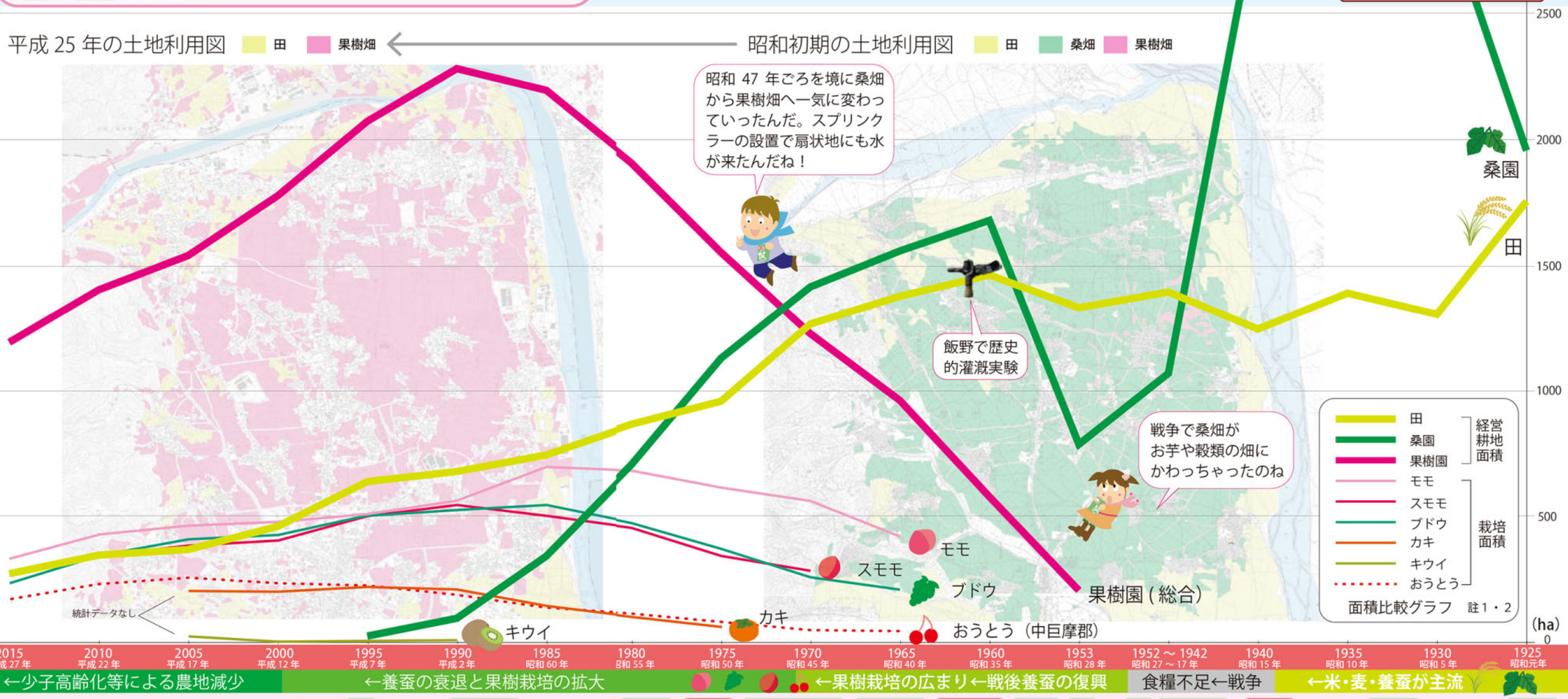
まる博レポート

徳島堰350年④
～御勅使川扇状地土地利用の移り変わり～

月夜の光でも焼けるとうたわれた御勅使川扇状地の土地利用は江戸時代末期以降、世界情勢の変化とともに移り変わってきました。明治時代には煙草栽培が主流でしたが、日露戦争によって財政難となった政府が葉煙草を専売化したため、地域の主要産業は養蚕へ変化し、大正時代には煙草畑から桑畑へと一気に切り替えられます。養蚕で得た生糸は主に米国へ輸出されましたが、太平洋戦争によってその量は激減し、戦後、一時的に復興したものの、米国で開発された化学繊維が普及し輸出は減少します。さらに安価な中国産生糸の輸入が拡大したことで養蚕業は衰退し、桑畑は姿を消しました。その一方、釜無右岸土地改良事業によって徳島堰からスプリンクラーが設置されて水不足が解消し、果樹を育てる農業が基幹産業へと成長しました。

こどもたちが作り学ぶ土地利用グラフ

掲載した経営耕地面積のグラフは、白根源小学校6年生が「南アルプス市の魅力」をテーマにした総合の学習と修学旅行事前学習を兼ねて、統計資料を基に文化財課と共同で作成しました。正確なデータからふるさとの歩みを再発見する試みです。悩みながら、みんなでグラフを完成させました！



明治末から西野・在家塚で近代果樹栽培が始められる

昭和9年ころ柿の室内乾燥日本で初めて西野で成功

米国でナイロンがストッキングに使われる

太平洋戦争。米国への生糸輸出停止。食糧不足のため桑畑から穀類の畑へ転換

戦後すぐは食糧不足

生糸生産復調。桑畑拡大

飯野でスプリンクラー設置実験始まる

米国で衣服などに価格が安定した化学繊維が使われ、生糸や絹織物の輸出が減少

統計にモモ、ブドウなどの項目が入れられる。桑畑から果樹栽培への転換が進む

昭和40年釜無川右岸土地改良事業始まる。堰のコンクリート化、御勅使川扇状地へのスプリンクラー設置

安価な中国産生糸の輸入拡大。養蚕業衰退

サクランボ雨除けのサイドレス日本で初めて普及

モモの非破壊糖度センサーが日本で初めて発明され、西野農協に設置

スモモ貴陽、品種登録

文・イラスト / 文化財課
写真 / 文化財課・白根源小

註1：南アルプス市域（旧6市町村）の田、桑園、果樹園の面積は『山梨県統計書』および『山梨県統計年鑑』を基に5年ごとのグラフを作成。「おうとう」は市町村別データが掲載されていないため、中巨摩郡のデータをグラフ化した。なお、平成17年以降は南アルプス市の数値。
註2：モモ、ブドウ、スモモ、カキのグラフは「山梨県統計データバンク　https://www.pref.yamanashi.jp/toukei_2/DB/EDE/dbeb02000.html」の「市町村別耕地面積」を基に作成。2010年、2015年のデータは農林業センサスのデータを利用。

開削350周年
まるごと体感！徳島堰ツアー
11月21日（土）8時半バス出発～15時
ふるさと文化伝承館駐車場バス出発
頭首工からゴールまで、バスと徒歩（約4km）で徳島堰をまるごと17km体感します。
要申込　先着40名
055-282-7408（伝承館・木曜休館）
055-282-7269（文化財課）
昼食、飲み物、マスク
※新型コロナ感染予防対策（検温、体調確認、手指消毒、マスク着用）を講じ、状況によって中止の場合があります。